ふれあいたまこ

第52号
令和元年9月

発行：多摩湖町福祉協力員会
連絡：Tel.393-3697
（地区長　松本　しづ子）

東村山市社会福祉協議会
東村山市野口町1-25-15
（Tel. 394-6333）

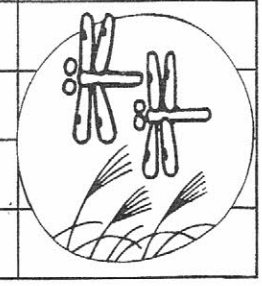
「ふれあいたまこ」は多摩湖町福祉協力員会の広報紙です。年2回（9月·3月）発行し、多摩湖町の全戸に配布しています。

令和元年度　長寿記念品のお届け

・記念品お届け日：令和元年9月11日（水）～9月30日（月）の間
　※受領印をお願いいたします。
・対象者：「敬老の日」（9月16日）を80歳以上でむかえられる方
・お届けする者：下記掲載の多摩湖町福祉協力員
　（身分証明書をご確認ください）
・ご連絡、お問い合わせ先：東村山市社会福祉協議会「長寿を共に祝う会」
　担当／越ヶ谷（えちがたに）　電話／394-6333

多摩湖町福祉協力員名

1丁目		2丁目	3丁目	4丁目	西武園住宅
深野　真弓	小澤　道子	清水　好江	◎松本しづ子	小林　園子	広瀬　靖子
田口なみ子	渡辺トミ子	大野　清吉	泉　マヤ	☆浅見　桂子	堀部　紀子
落合　キミ	☆石橋　歌子	庄司由規子	松井　佳子	田口美知子	丹野　充彦
田中嘉津子	小野寺光子	土井　英子	石橋三枝子	大畠　勝枝	
寺山　富子	安藤　礼子	千葉　俊美	石橋　淑子	横田せつ子	
☆浅見美智子	水島ふみ江	☆神津　道子	☆清水　敦子	大熊　鎮成	
枡崎美智子	星野　初江	原野　栄子	増子　正子	☆寺島　晶子	
田口　正子		木崎　朗子			



◎地区長　☆民生・児童委員

お知らせ・お願いコーナー

一円貨募金

◆多摩湖町総額　296,696円
（8月20日現在）

ご協力ありがとうございました。お寄せいただいた募金は東村山市社会福祉協議会を通じて下記事業の財源として使わせていただきます。

○車いすでなければ外出が困難な方々の通院等の送迎を行う「移送サービス事業」
○乳酸菌飲料の配布を通じて、ひとり暮らし高齢者の安否確認を行う「ふれあい訪問事業」
○ひとり暮らし高齢者に定期的に電話訪問員がお話をし、孤独感の緩和を行う「ふれあい電話訪問事業」
○子どもや子育て家庭を応援する「標準服リユース事業」

2019 多摩湖町介護予防大作戦

◆日時／
10月27日（日）
午前11時～

◆会場／
多摩湖ふれあいセンター　全館

◆内容／
後ほどポスター、チラシ等でお知らせいたします。

＜会費納入のお願い＞

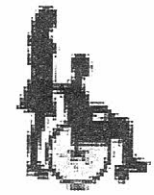
社協会員の皆様のお宅に福祉協力員が集金に伺います。

◆期　間：10月から12月

◆年会費：個人正会員の場合
一口　500円（一口以上）

ボランティアの窓

ボランティアと私



私がボランティアを始めた切っ掛けは２０余年も前のことです。社会福祉協議会主催の「地域福祉カレッジ」を受講し、終了後に同受講生らでボランティアサークル「さんき」を立上げ、会員になってからです。昨今の「さんき」会の活動は、市内小学校で＜車椅子とアイマスク体験＞の活動が主流で、子ども達のパワーに遠い昔の自分を思い出したりしています。

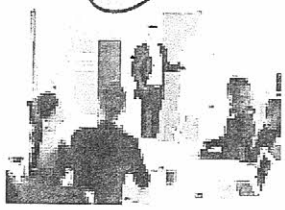
多摩湖町での活動は主に福祉協力員活動ですが、気付くと、こちらも２０余年が過ぎてしまいました。自分が活動できる時間に出来ることを、提供することを基本に沢山の方々と出会い「笑い」「喜び」をはじめ、時には「悲しみ」など様々な経験や気付きがありました。そうした活動の中で友人、知人を得ることができ且つ助言や助力を戴いています。

私にとってのボランティアは「学習の場」と言っても過言ではありません。個人の拙い力では如何ともしがたいことでも、沢山の協力者が集まることによって目的を成し遂げられることは、多摩湖町福祉協力員や諸団体の活動が証明している通りです

遠くに奥多摩や秩父山系を望み「緑」「水」と「花」に囲まれた多摩湖町がこれからも自然豊かで優しい町であり続けるためにボランティアの力は一人ひとりの生活のなかにあるような気がします。

（小　澤）

民生委員・児童委員掲示板　その⑪



両親の子どものネグレクト（育児放棄・養育放棄）に係わったことをご紹介致します。

Ｔさん家族はサラリーマンの父親と外国籍で夜の仕事に従事している母親、二人の兄とＫちゃん（５歳）、妹の６人家族である。母親は子どもの頃兄姉に育てられ、大きくなれば家庭を助けると思い、子供を保育園や学校に行かせなければいけないという考えは殆んどなかった。兄２人は暴力事件で児童自立支援施設に入所、Ｋちゃんも両親のネグレクトで児童養護施設に入所した。

Ｋちゃんが入所して１年経ったころ、両親の元に戻すため「Ｋちゃんの見守り、サポートをしてほしい」と子ども家庭支援センターから連絡があった。児童福祉司、保健師、子ども家庭支援センター、民生委員・主任児童委員、Ｋちゃんの両親と児童相談所で会議を行った。話し合いの結果
①母親は夜間の就業はしない　②Ｋちゃんを保育所に行かせる　③Ｋちゃんの見守りサポートする　ことが両親の納得の上決まった。

その中で、民生委員・主任児童委員の役割は　①定期的に家庭訪問し、民生委員・主任児童委員は地域で支援する役目を持っていることを知らせる　②両親の話し相手になって愚痴を聞いてあげる　③生活の様子をみることであった。

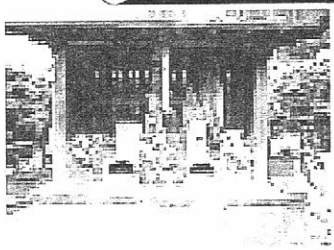
早速Ｋちゃん宅を訪問すると部屋の中は父親の好きなゲーム機３台が置かれ、蒲団は敷き放しで足の踏み場もなかった。母親の話によると夫婦喧嘩は絶えず、父親は子どもをよく叩き、自分も見境なく叩くこともあった。

Ｋちゃんが８歳の時、父親が鬱（うつ）状態になり会社を休職した。生活のため母親は料理店で働き家に帰るのが難しく、月２～３回程度であった。そのため民生・主任児童委員で行っていた家庭訪問は「民生委員と子ども家庭支援センター」「主任児童委員と児童福祉司」と色々な組み合わせで行くことになった。

Ｋちゃんが１０歳の時、家庭訪問は取りやめとなりましたが、父親は鬱（うつ）状態、母親は料理店で働き殆んど家に帰ってこない様子です。その後も家庭環境は変わらず、長男は行方不明、次男は引きこもり、Ｋちゃんは学校には行くものの、遅刻して給食を食べに行っているにすぎなかった。
その後も色々な支援を関係機関や専門家が働きかけても、父親は理解をしてくれなかった。
「ネグレクト」で係わりが始まったＴさん家族ですが、他に何か出来なかったのかという後悔だけが残り、色々反省させられた家族であった。

（大　熊）

多摩湖町を歩いてみる シリーズ⑪



馬頭観音堂と地蔵菩薩

この観音堂と菩薩は多摩湖町1－15－27に所在する。同町1丁目の浅見け江子さん等５代に渡って祀っているもので、昭和１９年（１９４４年）２月２９日の宅部の大火で母屋と米蔵（現在の東たいてん保育園）が全焼し現在地に移転した。幸い馬頭観音堂と地蔵菩薩は免れた。

第四中学校の宅部通りを西方向に向かい、最初の信号を左折すると変則の十字路（東たいてん保育園の北側）がありその角地に位置する。間口4.0m、奥行3.6mの三方が杉の垣根に囲まれた、高さ４０ｃｍの馬頭観音堂（施主浅見武右衛門明治２７年甲午≪１８９４年）≫）と44ｃｍの地蔵菩薩（浅見孫次郎大正９年《１９２０年》１２月建立）が鎮座している。いつも四季折々の生花と千羽鶴５本が飾られ、塵一つなく綺麗に清掃されている。

かつて宅部地区（現多摩湖町）は武蔵野の雑木林で櫟（くぬぎ）（薪炭用では最も上等）と楢（なら）が生い茂っていた里山であった。江戸時代の末期（１８３０年頃）以前から浅見家では炭焼き、畑作、稲作で生計をたてていた。櫟の上等な炭を売る為、炭俵を東京に運ぶには唯一馬車が運搬の手段だった。高祖父の浅見武右衛門（天保１３年《１８４２年》生れ）が52歳の頃、炭俵を東京に運ぶ途中、馬が転んで足を骨折してしまった。殺処分をせざるを得ず、明治27年甲午（1894年）にその供養として建てた。

浅見さんは毎日欠かさず線香を手向け、近所の人も毎日線香を上げて、大病を患っても治ってしまうと言っていた。また狭山市（東村山市野口町に住んでいた）の高齢の女性は月１回参拝に来ている。６５年前頃、年少の弟が病魔に苦しんでいた時、観音堂と地蔵菩薩をお参りして完治したことが忘れられないと言う。地蔵菩薩を見ると何時も微笑んでくれていることが何とも言えないと。最近では犬の散歩をしていた女性が携帯電話を落としてしまい途方に暮れていたが、歩いた跡を戻ると観音堂の前にあったと言う。

＊江戸時代（1603年～1867年）以降国内の流通が活発化し、馬が移動や荷運びの手段として主に使われていた。これに伴い馬が急死した路傍や芝先（馬捨場）に馬頭観音が多く建てられ、馬の無病息災の守り神であり、動物の供養塔として祀られたものである。（大　熊）

あとがき

東村山市社会福祉協議会は平成31年3月1日に法人化50周年を迎え、記念社協大会が6月28日、中央公民館で開催されました。その基調報告の中に「誰もひとりぼっちにしない町づくり」をスローガンに活動を進めていくとありました。近年、「独居高齢者」「個食」「ひきこもり」など顕著な増加傾向にあります。そうしたスペース的なひとりと共に「困ったときに相談する人がいない」「話し相手がいない」「他者から相手にされない」など孤独感や孤立感といったひとりを心に抱えている方も多いと思います。私達、福祉協力員として何ができるでしょう。よく言われることですが、「おはよう」「こんにちは」と挨拶してみる。地域に居場所を考える。一人ひとりができることは少ないかもしれませんが、「3人寄れば文殊の知恵」力を合わせればいろいろなアイデアが生まれます。地域の皆様のお知恵も拝借して。まだまだ暑さの続く9月です。体調管理にお努め下さい。

（神　津）

デザイン:神山幸恵